AFRICA JAPAN FORUM BRIEF REPORT 2019

Africa Japan Forum 25th Anniversary

アフリカンキッズクラブ

01

アフリカルーツの子ども・ユースが集い、楽しみ、経験や思いを共有しあう

12月 クリスマス会

アフリカンキッズクラブは、2019年も様々な活動を実施しました。**アフロビーツダンス**では、毎月のレッスンを行い、その成果をアフリカンフェスティバルのステージで披露。毎回親子合わせて約40人が集まりました。夏休みには、**ナイジェリア里帰り報告会**やアフリカ布の使った**切り絵アート講習会**を実施。アフリカ布のハギレを使い、あざやかな花の切り絵を作りました。12月の**クリスマス会**は70人が参加し、大学生が準備したゲームを楽しみました。

ユースが集う**アフリカンユースミートアップ**や**Harmony Café**も開催。 Harmony Cafeはセネガル料理を作りました。アフリカンユースミートアップは３回実施。「マイストーリー」を出し合い、思いや経験、悩みなど語り合う場となっています。インタビュー動画や記事も多数発信しています。TICAD7に合わせて、横浜にあるユース団体との合同イベントとして**「アフリカを知ろう」**が実現。**イボ人協会の子ども会とのコラボ**も始まりました。また**アフリカンキッズクラブ東海**が設立され、ヘア講習会やクリスマス会に約20組の親子が参加しました。

在日アフリカ人との連携・支援

02

アフリカにルーツをもつ人々が安心して生活できる社会を実現する

12月 第２回勉強会・交流会

日本で暮らすアフリカにルーツをもつ人々が安心して生活でき、差別や排除を受けることなく、人権が尊重される社会を実現する。そのために、アフリカにルーツを持つ人々と共に活動し、日本におけるアフリカへの理解・関心を高める活動をしています。なんみんフォーラムなど難民支援団体とも連携・協力を行っています。

2019年の主な活動は、少しでも多くの人がアフリカの多様な文化や社会に関心を持ち、在住アフリカ人の抱える日常生活での困難な点や悩みを理解してもらえるために**「在住アフリカ人と共に生きる勉強会・交流会（全4回）」**を企画しました。

第1回「アフリカの暮らし・文化、日本で共に生きるために」（11月）では、ケニア、南アフリカ、ガーナ出身者から各国の暮らしや文化などを紹介しました。

第2回「在住アフリカ人の生活相談のニーズ」（12月）では、リベリア、ケニア、ナイジェリア出身者などから生活で困っていることや、そのサポートについて紹介しました。

アフリカ日本協議会（AJF）活動紹介 2019

アフリカ開発会議（TICAD）

市民社会の活動の場を確保し、アフリカの人々の声をTICADに届ける

03

日本を拠点に活動するNGOと個人のネットワーク**「市民ネットワークfor TICAD（Afri-Can）」の事務局**を担い、政策提言のとりまとめ、サイドイベントの開催、本会議の参加手続きの情報共有や支援、外務省との交渉・連絡調整等を行いました。

8月 TICAD7終了後：市民社会団体主催の記者会見

6月、**TICAD7の準備会合となったエチオピアでの高級実務者会合に出席**。アフリカ各地から参加した市民団体とともに、TICADの基本方針と成果文書の改善案を提出し、一部が反映されました。**外務省とは4回に渡る直接対話の場をつくり、**各回20前後に及ぶ団体がTICADの在り方や成果文書について提言しました。また、**本会議の登録に関する市民社会セクターの「コンタクト団体」**となり、国内外500人以上の登録や情報提供、席数の限られた本会議の参加者調整等を行いました。そしてTICAD直前には横浜にて**シンポジウム「ここから始まるアフリカ」**を開催。アフリカから来日した10名以上のNGOの活動家、日本に住むアフリカルーツの人々、そして参加者の皆さんと新たな協力の可能性を模索しました。TICAD7終了後からは、Afri-Can参加団体や関係機関へのヒアリング、アンケート調査等を実施し、成果を検証しています。今後TICAD部門では、AJF独自の役割を果たすことができる、より効果的な活動とその仕組みを再構築していきます。

04 グローバルヘルス

三大感染症対策・保健システムの強化に向け、当事者・市民社会が連帯する

8月グローバルファンド理事（外務省TICAD担当大使）に報告書を手渡す
アフリカから来日した保健分野活動家の皆さん

2019年の国際保健部門の最大目標は、**グローバルファンド（世界エイズ・結核・マラリア対策基金）の第6次増資**を成功させ、アフリカの三大感染症（エイズ・結核・マラリア）対策費や、誰もが安価に保健医療にアクセスできる「ユニバーサル・ヘルス・カバレッジ」実現に向けた資金を確保することでした。

エイズ問題に関して、現在、アフリカでは、HIV感染の多くが若い女性に集中していることや、特に西・中部アフリカで対策が進んでいないことなどが課題となっています。国際保健部門では、**TICADやG20、SDGsに関する政策提言などあらゆる機会**をとらえて、アフリカやアジアの当事者グループや市民社会団体と共に、グローバルファンドなどへの十分な資金拠出、ユニバーサル・ヘルス・カバレッジを草の根から実現するためのNGOやコミュニティ、当事者組織の支援などについて政策提言しました。

結果として、日本は6月にグローバルファンドへの8.4億ドルの拠出を表明。これは過去最大額となります。10月にフランスで行われた増資会議では、**目標額の140億ドルを上回る誓約**がなされました。今後は、日本を含む主要拠出国が拠出誓約を守り、また、途上国サイドで資金が適切に使われ対策が進むように、世界の市民社会とともに取り組んでいこうと考えています。

05 農業と食料安全保障

農民の生活と飢えの仕組みを知り、ともに考え、行動する

FAO（国連食糧農業機関）の定期レポートによれば、アフリカ55カ国のうち30カ国以上が外部からの食料支援を必要としています。これらの国々の食料危機は、（1）紛争・社会不安を逃れる人々の大量移動により安定した農業生産ができなくなったこと、（2）移動する人々への食料支援がおいついていないこと、（3）天候不順が常態化し農業生産が困難になったり、生産物が失われたりすること、（4）水や土地をめぐる紛争が各地で発生していること、こうした事態によります。 AJFでは、こうした状況を伝える**FAOのレポートを翻訳する学習会**を定期的に行い、AJFウェブサイトで紹介しています。

10月 「世界食料デー」月間

またこうした知見を広く伝えるために、FAO日本事務所や他のNGOと協力して**「世界食料デー」月間**を開催。近年、フードロス対策を一緒に進めるため、横浜市資源循環局とも協力して取り組みを進めています。

8月 TICAD7サイドイベント
「アフリカの農民の声を聴こう～気候変動と家族農業」

加えて、2012年10月にモザンビーク全国農民組合（UNAC）が、日本の**ODA事業「プロサバンナ」**に対して、「どんな事業が進められるのか農民たちに伝えられておらず、農民の声を反映させる仕組みもない」旨の声明を発して以来、事業対象地の農民の声を日本政府・JICAに伝え、事業の中止を求める取り組みに参加してきました。12月の国会議員主催勉強会は、マスコミでも多く報じられています。

熱帯林と野生生物保全 06

森と野生生物とヒトの関係を知り、発信する。

アフリカ中央部にある**コンゴ盆地**は、世界有数の貴重な熱帯森林が広がっています。AJFは同地における自然環境や野生生物、またその地域で暮らす先住民と呼ばれる人びとの生活や、彼らが抱える問題について、AJFのウェブサイトやイベントの講演などを通じ情報発信と啓発活動を行っています。

特に象牙利用と大きく関わる**マルミミゾウ**や、日本でもペットとして需要の高い**野生ヨウム**の保全に関する問題を取り上げています。ヨウムの保全にについては、クラウドファンディングを実施し、3年間で200万円近くの寄付をいただき、コンゴ共和国でのヨウムの野生復帰に貢献することができました。

会報誌『アフリカNOW』

アフリカから学ぶ、考える、発信する

『アフリカNOW』は、1994年8月に創刊準備号を発行し、現在では112号（2019年3月発行）まで発行しています。AJFの内外に向けて、多彩な執筆者により、AJFの活動や、アフリカと日本の課題や話題に関する記事を掲載してきました。現在は不定期刊で、年間で2、3回程度の発行。AJFのホームページに『アフリカNOW』の各号の目次を掲載しています。現在、アーカイブとしても活用できるようにするために各号の全文をpdfファイルで掲載することを計画しています。

■ 最近の主な記事

第111号（2018年8月発行）

- トピック「アフリカゾウの保護がもたらす村の被害」　岩井雪乃、田村美都子
- 「持続可能な開発に向けたSDGSケニア・フォーラムの活動」　フローレンス・シェブリオ・ムリ
- 「AKCリレーエッセイ第5回　ジャフリカンとして生きる」　三浦ノア

第112号（2019年3月発行）

- 「吉田昌夫さんが語る：アフリカ研究者が市民活動に関わること」
- 「南アフリカ障害者自立センター設立事業に至る経緯」　降幡博亮

アフリカの人びとととともに活動する仲間として、AJFの活動を支援してください

会　員

アフリカ日本協議会（AJF）は、ここで紹介した以外にも様々な活動を、アフリカの人々とともに実践しています。あなたもAJFの会員になって、アフリカとのネットワークを広げませんか？学生やアフリカに関心を持ち始めた方も歓迎です。詳細・お申し込みは以下のWEBサイトをご覧ください。

- 詳細・お申し込み：http://ajf.gr.jp/入会案内/

AJF入会案内

寄　付

AJFが取り組んでいるさまざまな活動を支援していただけませんか。

寄付や会費は以下のいずれかの口座に振り込んでください。

- 【郵便払込口座】00120-3-573276　特定非営利活動法人アフリカ日本協議会
- 【銀行口座 】三菱 UFJ 銀行上野支店　(普)5305887　特定非営利活動法人アフリカ日本協議会
  - 銀行口座への振り込みの場合は、info@ajf.gr.jp までご連絡をお願いします。
  - 寄付の金額は、3,000円、5,000円、10,000円、20,000円、その他から選んでください。

連絡・問い合わせ先

NPO法人 アフリカ日本協議会（AJF）

〒110-0015 東京都台東区東上野 1-20-6 丸幸ビル3階

E-MAIL：info@ajf.gr.jp / TEL：03-3834-6902

http://ajf.gr.jp/

Africa Japan Forum 25th Anniversary